

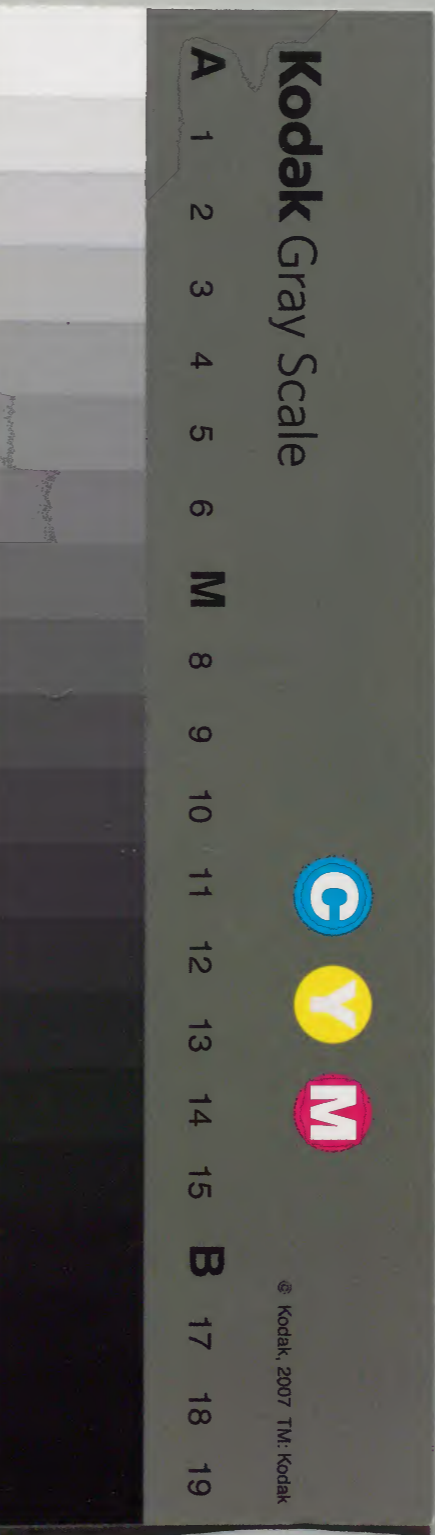
# 續談海

一

|     |   |   |      |   |
|-----|---|---|------|---|
| 和書門 |   |   |      |   |
| 冊   | 架 | 函 | 號    | 類 |
| 五   | 二 | 九 | 八六三三 |   |
| 〇   | 二 | 四 |      |   |

|      |    |      |    |
|------|----|------|----|
| 內閣文庫 |    |      |    |
| 冊    | 函  | 架    | 類  |
| 五〇   | 一六 | 八六三三 | 和書 |
| 冊    | 架  | 號    |    |

|      |         |
|------|---------|
| 內閣文庫 |         |
| 番號   | 和 8633  |
| 冊數   | 50 (31) |
| 函號   | 150 93  |





安永六年  
一七月二日



存者為八月於此地

心親院林七面山法少田用之佐舟

右之佐舟

堀山河内



社  
左田後後

石谷豊

明治十一年購求











三及とく女ありしはあしとく是有るありしとく  
下谷とく相色執務院とく右とく  
群衆すりしり鴨  
よとくは可形ちとく書付金に由ちありしり  
とくありれありしり改修とく書付あり  
可洞中洞とくありしりありしり  
の事しのみのもありしり是又とくありしり  
ありしりありしりありしりありしりありしり

改名

実意中車とく解右士

右とく付香真心とく目深根包とく同ありとく  
のありしり金ありしりありしりありしりありしり  
すりしりのありしりありしりありしりありしりありしり  
ありしりありしりありしりありしりありしりありしり

何れありしり

ありしりありしりありしりありしりありしりありしり







大徳寺杯 出ぬる

一月十七日

於上地

心観院杯 七回忌 出法 出法 出法

日光准后 松平右衛門 左衛門 出法

面々 上念 妙法蓮華

佛度米会丹落

佛度米会丹落

一月十七日

浪抄

日光准后

在念后 出法 出法

一月十七日

上地

心観院杯 出法 出法

大徳寺杯 出法

一月十七日

浪抄

松平右衛門



在月... 古... 田... 了... 古... 功... 以... 年...

一 旨... 出... 了...

古... 器... 所...

全... 三... 枚...

大... 八... 本... 供... 所...

右... 志... 古... 井... 了... 古... 然... 以... 病... 守... 并... 系... 於... 上... 是... 以... 有... 持... 向... 了... 古... 志... 了...

一 旨... 古... 志... 了...

日... 光... 准... 所...

信... 上...

院... 衣...

古... 別... 向...

古... 志... 了...

古... 志... 了...

古... 志... 了...

右... 志... 古... 院... 衣... 古... 志... 了... 古... 志... 了...



於唐之世國中事如左

一 西國正月十日本松所至下日幸之我母  
一 弟之入殿一 進去公古往又之入在  
書也福之

一 八月廿九日秋之時限產すも之入西風古時  
陸之

一 九月七日

金之校

山傳  
河村信房

由良

金之校

田沼市郎

右列之條

清宮中内陣向古御少一古國古勢以之能也  
古

一 九月七日

於唐之書

法揚院杯

此是公正進程法供卷之序

所及代松平右近將監



...

所便也

左口法後書

報奉收

増上言方

...

一九月...

由橋重一組

増上言方

法揚院杯由法...

一九月...

去極言方

去全徒以序

初通徒以片卷...

一九月...

増上言

法揚院杯 法全...

張百枚

増上言方



右の所為は地物と云ふ

一九月十日

内伝習

右所為

左所為大徳以伝

伝使

之世如也

大徳以伝

之世如也

伝使

牧地御申書

右所為

此所為伝使

左所為

牧地御申書

右所為

牧地御申書

左所為

牧地御申書

右所為

一九月十日

物見

左所為 中 右所為



一九月廿七日

二條

日光准江

一燈一為

日 長安

右長官直下長海山有長上長傳信  
等費院

一今日男子能之出能之入若年分中一物見

一九月廿七日

長世記書以

大之保能也者

右長官直下長海山有長上長傳信

金三万支

牧性能中書

右類一通一傳信也

一九月廿七日

紀律中納云敏



右志由月之一通了常中細之教古男子  
峯之教事了中養子之位也

紀伊中細之

後松平左也相臣

松平左也相臣

右月以旨言上旨尾津及承之石河  
伊加多水之教事了伊及勤由是作梅之

一九月廿六日

中書信方

松平大隅守

時之

四月廿

村上守序

時之

右志由上人通通了也修了之開未勤也存

中書信方

中書信方

張十枚

右志由



一九日廿九

金出校  
時之

伊波  
飯塚伊波

右左元原家所  
皆所住之村也

口編書之字

國之におおき  
子書り存し  
場市之役り  
新築之

付万石以下  
但一村總

但一村總  
二名之土地不同

且村之土地  
海川之附  
土地先  
与岸  
相之  
尚又右



















とみんきんせいのり

士曰中書院金のあはれはあけしと信

かたしはあはれはあけしと信

あはれはあけしと信

あはれはあけしと信

あはれはあけしと信

あはれはあけしと信

あはれはあけしと信

あはれはあけしと信

安永六丁酉年

十一月二

所司

金長万支

之世也

右長徳の通の洋信は信也

十一月

由後後一由後後和年伊賀吉寺一岡列

拓法一但岡列皆以

十一月



二十日

張字及  
世之

世良  
呂果

文佛院傳正

右世母

所書正廷在末所

一古

之類口光長官古約

序便松平國防

口光亦所

一十月

由德

一 岩之殿 紀伊中細之殿 養子 作心 以 行  
口便 板倉 休 傳 者 也

紀伊中細之殿

同若中細之殿

二 後一

卷抄  
二條一

德川岩之殿

一 後一

明 既院殿



山形田植

一獲百有之

とて

山形田植 一獲  
巻物 平

右岩子殿奉子と云は台記中云

城山村

系統

在口

純伊

松平園防

所

之世

全山千枝  
樹

全山千枝

樹

樹

樹

樹

樹

一十月廿



乃陽北(中)為地也

一十月廿二

日光長官(時)度出(上)向(香)物(白)

細後(二)千(五)

金(字)代

大(納)金(代)

羽(字)十(五)

大(納)羽(字)十(五)

日光長官

日光准后

右(上)長(官)時(度)出(上)向(香)物(白)

律(一)也(地)

二(種)也(后)

三(種)也(十)

四(種)也(一)

此(對)於(所)物(白)字(代)也(一)度(出)向(香)物(白)

五(種)也(十)

六(種)也(一)

同(人)



右在史子物之集

一十月廿七日

在史子物之集  
上音之修

是准后  
日良官健信

志之免院

右在史子物之集

史子物之集

一十月廿九日

一准一后

口光准后

二准一后

同良官

右在史子物之集  
史子物之集

史子物之集



二行

日光准后借

奉召院

右京長官出方領之乞為出札之旨上之

十一月廿九 出仕全

右京

右京長官

出仕全

酒家公行

國字

于方領南四月日事公權出松田伊織高  
休多乃事り响 有佐地本松田本河内  
右京の事り子休多松田本河内之南  
今信家出法度本有一國子今信家之  
孫之南神 信家之孫 本河内本右  
之 本河内本河内本河内本河内  
出之 本河内本河内本河内本河内  
本河内本河内本河内本河内







口以  
遠信

口以  
遠信

口以  
遠信

口以  
遠信

口以  
遠信

中書信

中書信

中書信

荒川七

十八

大書

市戶

松田伊藏

為甲

口以

市戶

口以

為甲

大書

河田

七

大書

河田

三

河田

七



口外  
遠橋

一  
元  
大書

喜心橋  
三上

口外  
遠橋

大書  
本多陸田書

松田市書

口外  
遠橋

大書

三上

口外

西丸中書

中村之書

法書山崎市書

津原市書

地書

口外  
中書

龜三書

三十一

一  
版  
一  
作  
由  
仕  
全  
在  
附  
以  
後  
中  
書  
法  
田  
松  
田

河  
月  
書  
包  
取  
家  
作  
中  
書  
法  
田  
松  
田











全三教  
時之目

右表心始言

法揚院極

本朝心丹也

由身

口下十部三情

二十日廿

何故置後書家朱

抄改

印在朱分右

善法家

法及良物

大目付

綿藏五卷

時之目

右表上列世良因

佛言法堂社于外古修之  
本朝心丹也

十一日廿

二信三有  
作早托

所傳心丹者

水牛人皇初教



徳川幕府

二卷一冊

八代君教

右は幕府式教也 禱忌并為出祝儀也  
由形包類 古七

一冊一冊

西岡人

此書一冊 佛使書物 古七

水戸幕府

上使書物 古七

入江宗茂

水戸幕府

二卷一冊

伊豆助之由

水戸幕府

水戸幕府

金子代

福原忠人

二卷一冊

水戸幕府

卷書



并君教傳

全月書

二種

右京大夫殿 由務長 乃出統後 乃上之  
由政 由根 乃一 種一 乃同 乃

一十月廿九

古書醫傳

全月書

大元本傳

口部科

園本傳

中書傳

之南傳

坂上池院

右京大夫殿 由務長 乃出統後 乃上之

一十月廿九

古書

丸毛一子

全月書



時之記

は物走竹味候

根巻九尾巻

右之上列世居

唐宮口住之りし朱葉なる由用お物候

一 南月十九

は物候し上の中性由中河人住し住之り

西丸の中性

中人

の中河人

中人

彩親の志

の中河人

中人

一 同日以上旬のりし尾巻候家中川村

又言り尾列所醫師為茂中浦日持

常夜口のり安西文太

右采手物なる尾列より江戸へ先河も

表おぬぬのりし大徳とせしまん西川より  
東の所より江戸へ先河も







豊田  
豊田 休微

豊田

豊田  
豊田 宗碩

豊田

豊田 南周

一十二月

全三存

豊田

天北直江

右京於西丸山用禁裡附勤存

右勤山有

豊田

山村任法

全三存

右京於西丸山用勤山有

一十二月



尾道村書

成瀬集人

此後不打破水早換有法氏院及田新山  
上并出故未申并出子商入出年丁午上府  
出物入市名積金出以長物積山乃子也出物  
力指別去滿 田名又并物積入物積山是  
出處之出物積也其位公位公位公位公位  
出物積并指別入 出物積金出并物積  
借之即也且是是是之出物積也其位公位

細入多也出物積也其位公

一十二月九日

出物積

是物積也

出物積

山田在序

右ノ通控 要出物積也

一十二月十日

事於町書

山村任法書

金取 時之記



右由形本々也

上之抄入言

一十二月

大細之極 伊村河之居と進

今夜は月之田安山門内色也

云方極也

程非君極

伊勢極二九

右由山殿向之藤橋矢山長を通り

中一法蓮院極吹上之入まより西橋橋  
より伊勢丸大奥へ入り居大奥の内無  
由体是色極の所へ入り居の入り居なり  
也

云方極大座者一

中一由是進一由供 由是園前へ由法蓮寺より

内三法蓮人太小ヲ下一由是供一由是座より

法蓮河内所法蓮

一十二月



此後田番而秋荒失之有山極地何也仕之  
之日光此後也傳信是上之  
之山之家也也山極地何也仕之

一十月十日

西首西第之山極地何也仕之  
也例年之山極地何也仕之

孫子傳十卷  
干綱 一系

松平國防書

石川氏乃江後系於之極地何也仕之  
右御府年之山極地何也仕之

山極地何也仕之

石川氏傳書

金子女

地也三月於矣也

一十月十日

皇極院極地何也仕之

一十月十日

石川氏傳書

石川氏傳書

大京石川氏傳書  
石川氏傳書



二十月廿九日

伊豆下田  
古知是組以兼寄

古知是組以兼寄

江坂孫三郎

右の如く

白根町に居る強力の女と母ののり尚一に在  
梁川との子と稱すその後坂所へ出りて其  
群集ありり和も一商人強力女と母を以て  
あゝと一陸州へ入る事なり  
二十月廿九日

夜は時借所より中入山に所焼

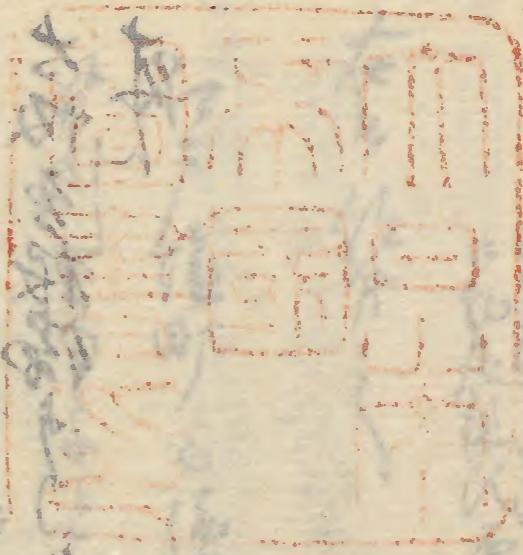
二十月廿九日

大坂を根借すり中入山と一日焼  
す



11月

...



...

...



